



第14回 星を制するもの？ 路傍の草花たち

「道端の雑草について考えてみますか？」

私たちにとって植物とは、どこにでもある、ありふれたものでしょう。

大砂漠ならともかく、都会の中心にだって、沢山の街路樹や植木があります。また少し足元に目をやれば、通常「雑草」なんて呼ばれている、ヒトに管理されていない草花も沢山あるでしょう。実際「雑草」の生命力と言うか、根性は大変なもので、ちょっとした道端の石畳の隙間、建築物の壁やアスファルトのヒビ、駐車場の隅など、ありとあらゆる所に彼らは取り付いています。枯れ草を放置しておくのは厄介なので、年に1、2回ほど、個人や業者が懸命に「雑草を処分」している姿も見られます。

それでも1ヵ月もするか1冬越せば、元の場所にまた芽生えが見られるものです。都心ではカタバミ、ヒメジオン、セイヨウタンポポ、セイタカアワダチソウ、ブタクサ、ササやイネ科の仲間等がよく見られます。

「もし放っておいたら？」

誰も道端の雑草を引っっこ抜いたり、バーナーで焼いたりせず、アスファルトの隙間の草を踏みつけたりしなかったら、街はどうなるのでしょうか？ 要するにもしヒトが街から1人も居なくなってしまうたら？

数年～十数年もあれば、雑草たちはアスファルトを割り拡げて繁殖し、誰も通らない歩道も、舗装された数車線の自動車道も、殆ど草に埋もれてしまうのではないのでしょうか？ 都会の人工物だらけの街でも数十年か百年もすれば、木々が生い茂って建物を覆い隠し、単なる林か、森になってしまうのでは？

実際、私が小さな子供のころ、遊び場にしていた里山が住宅地として丸裸に刈り取られ、区画整理され、きれいに舗装されたことがあったのですが、何らかの理由でそのまま放置されたため、20年ほど後にはもとの雑木林とあまり変わらない場所に戻っていました。

普段はヒトに気にされることもなく、目に余れば邪魔者扱いされている、彼ら「植物」とは、いったいどんな力を持った生き物なのでしょう？

「食料不要の光合成？」

彼ら植物は、細胞レベルから私達とは違います。植物の細胞には、動物細胞には無い「葉緑体」という構造があって、これが太陽エネルギーを吸収して栄養を合成しています。私たちヒトが毎日2000kcal以上の栄養を必要とするのに比べ、植物は、水とわずかな塩類、窒素分を要求するだけ。あとは太陽の光さえあれば成長できるのです。それにしても太陽から地球上の植物が受け取るエネルギーの総量は膨大なものです。私達動物すべては直接、間接に、彼らの固定した太陽エネルギーを横取りして生きているのですから。

「石炭紀ってご存知ですか？」

実際、3億7千万年前～2億9千万年前の大昔に巨大なシダやリンボクの大森林が発達した時代があり、その膨大な量の植物の遺骸が化石になっているものが「石炭」です。地球には、ヒトに産業革命を起こさせたほど大量の石炭が埋蔵されていて、今のところ掘り尽くされていません。この大森林の地質時代を、ヒトは「石炭紀」と呼んでいます。もし石炭がなかったら、今頃私達はどんな暮らしをしていたのでしょうか？ ヨーロッパで産業革命なんて起こらず、日本にも文明開化は無かったでしょう。

今頃は近代的な建物も、タクシーも、通勤電車も、旅客機も、大型輸送船も、ロケットも人工衛星も、スマホも無かったのでしょうか。石油は太古の動物性由来のものですが、その動物のエネルギーも植物の光合成由来。石炭と同じことです。時代を超えて地球の食料・エネルギーを支えているものは、植物が蓄えた太陽エネルギーに他ならないのです。

「緑のバリアー発生装置？」

もうひとつ、植物たちには大変な力があります。それも光合成によって、酸素ガス(O₂)を放出することです。このため地球の大気圏の上層、成層圏には「オゾン(O₃)層」があり、太陽からの強烈な紫外線を防いでくれています。一方、地球の内部では金属が対流しているため磁気圏を発生しており、磁気圏も宇宙線を防ぐためには重要なのです。ですが磁気圏だけでは太陽からの紫外線は防げず、紫外線の届かない海中で何とか生きていけるだけです。

オゾン層は陸上動物が生きていくためのバリアーで、植物はその発生装置なのです。植物がなかったら、陸上の動物は食べるものも無く、紫外線で根絶やしにされるというわけです。あたりまえなので最後に付け加えますが、そもそも私たちが酸素を呼吸できるのも、植物の光合成のおかげですよ。

「この星の王は誰か？」

動物たちの運命は、その歴史のはじめから植物たちに多大な影響を受けてきたようです。過去の地球で動物たちが上陸するには、当然、先に植物が上陸していることが必要でした。かつて針葉樹の森林が栄えたとき、そこには樹木の葉を食べる巨大な爬虫類が出現しました。植物たちが花の蜜や、果実を発見し、花粉やタネの運び手に選んだのは、昆虫や鳥や、私たちの祖先を含む哺乳類たちでした。もしも花や果実というものがなかったら、この世にサルなんて居たでしょうか？ サルが現れなければ、当然ヒトも出現する機会が無かったでしょう。

私達人間が「現代文明の叡智の時代」で大騒ぎし、何をしようと、どれほど植物を無視して暮らそうと、彼らは当然じっと動かず、何も言いません。それでもこの星の歴史を本当に動かして来たのは、普段ただ風に揺れているだけの植物たちなのではないのでしょうか？

いつもの道を通るとき、何気なく目に入る雑草たち。彼らを見るたび思うのです。本当は人間の方こそが、この緑色の強大な生き物の傍らを、ただ一瞬通り過ぎて行くだけの、はかない存在ではないかと。